

有感性主義と現象的概念

佐々木 健人 (Kento Sasaki)

無所属

近年、倫理学における「有感性主義 (sentientism)」への注目が集まっている。「有感性」とはつまり、意識経験（あるいは現象的意識）を持つ能力であり、特に快樂や苦痛といった感情価を伴う (valenced) 意識経験を持つ能力である (Birch 2024)。有感性主義によると、有感性は規範的に重要なものである (Dung 2024)。つまり、ある存在者が意識経験（少なくとも感情価を伴うもの）の能力を有することは、その存在者の道徳的地位や、その存在者を含む状況の内在的価値に影響するのである。有感性主義には複数の種類があるが (Dung 2024)、何らかの意味での有感性が規範的に重要であると主張する点では一致している。

しかし、この世界での意識能力の分布には、広範囲の不確定性が存在するかもしれない。この問題は「意識のハード・プロブレム」をめぐる論争において、「タイプ B 物理主義」の問題として指摘されていたものである (Block 2002; Papineau 2002, 2003)。有感性主義が注目を集め、非ヒト存在者の有感性について盛んに論じられるようになった今 (Birch 2024)、この問題は再び議論的となっている (Birch 2022; Kammerer 2022)。

タイプ B 物理主義によると、我々人間が持つ意識経験は、本質的には物理的または機能的な状態である。しかし、我々が持つ意識経験は物理的または機能的なものには思われず、つまり、それらの間には「認識ギャップ」が存在している。タイプ B 物理主義者は例えば、この認識ギャップを、我々が自身の意識経験について持つ「現象的概念」の特殊性に訴えることで説明する (Papineau 2002)。この説明では、現象的概念は、意識経験の物理的または機能的な本性を明らかにしないがゆえに、認識ギャップを成立させてしまうとされる。

しかし、このような説明の下では、現象的概念の指示対象が原理的に不確定になる可能性がある。なぜなら、その指示対象の候補が複数存在しており、これらの候補間で指示対象を確定させる術は存在しないように思われるからである (Birch 2022; Kammerer 2022; Papineau 2002, 2003)。

意識経験が本質的に物理的または機能的な状態であるならば、現象的概念は、その物理的状态または機能的状態を指示していることになる。しかし、指示対象の候補は原理的に複数（少なくとも、何らかの機能的状態と、それを人間で実現する神経的状态の二つ以上）存在する。加えて、我々の現象的概念は、指示対象の物理的または機能的な本性を明らかにしないため、候補を絞り込むために役立たない。したがって、それらの候補間で指示対象を確定させる術はもはや存在しないように思われるのである。

この議論が正しいならば、多くの非ヒト動物の脳や人工システムについて、それが意識経験を例化できるかは形而上学的に不確定であり、つまり、それらの存在者の有感性

は不確定であることになる (Birch 2022)。この場合、有感性主義の規範的意義は大きく損なわれてしまうだろう。

この問題に対して Dung (2024) は、タイプ B 物理主義ではなく「タイプ A 物理主義」を採用することで、現象的概念の指示対象を固定し、有感性主義を擁護できると論じている。本発表では、Dung の主張への批判を行う。彼の主張は確かに説得的なものであるが、発表者の考えでは、タイプ A 物理主義もまた不確定性の問題を逃れることはできない。なぜなら、タイプ A 物理主義の下で行われるのは、Dung が論じているような現象的概念の指示対象の固定ではなく、物理的・機能的概念の充実（と現象的概念の放棄）だと考えられるからである (Kammerer 2024)。つまり、タイプ A 物理主義を採ったところで、今我々が有している現象的概念の指示対象を固定することはできないと考えられるのである。このような議論をもとに、最終的に本発表は、有感性主義を現象的意識の観点からではなく、物理的・機能的観点から定式化することを提案する。

参考文献

- Birch, J. (2022). "Materialism and the moral status of animals", *The Philosophical Quarterly*, 72(4), pp. 795-815.
- . (2024). *The Edge of Sentience: Risk and Precaution in Humans, Other Animals, and AI*, Oxford University Press.
- Block, N. (2002). "The harder problem of consciousness", *Journal of Philosophy*, 99(8), pp. 391-425.
- Dung, L. (2024). "Preserving the normative significance of sentience", *Journal of Consciousness Studies*, 31(1), pp. 8-30.
- Kammerer, F. (2022). "Ethics without sentience: Facing up to the probable insignificance of phenomenal consciousness", *Journal of Consciousness Studies*, 29(3), pp. 180-204.
- . (2024). "Sentientism still under threat: Reply to Dung", *Journal of Consciousness Studies*, 31(3), pp. 103-119.
- Papineau, D. (2002). *Thinking about Consciousness*, Clarendon Press.
- . (2003). "Could there be a science of consciousness?", *Philosophical Issues*, 13, pp. 205-220.